誰でも簡単にできる 車椅子姿勢調整の環境支援 ~小児脳性麻痺児のシーティング理論を基に~

リハビリテーション室 古谷貴宏

従来のシーティング

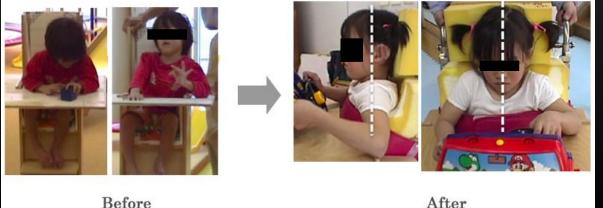




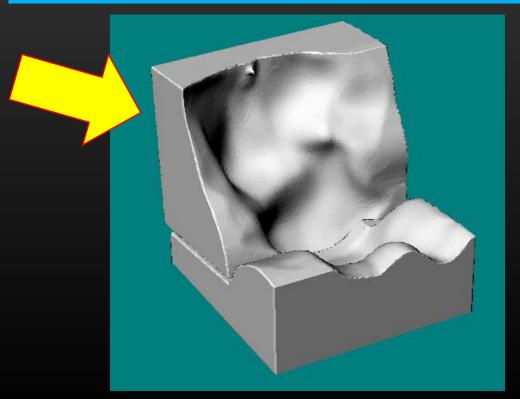


小児脳性麻痺児で取り組まれている理論 「頭頚部・胸郭・骨盤に圧を分散させるシーティング理論」

Before After



小児脳性麻痺児のシーティング キャスパーアプローチ



誰でも簡単にできるシーティング



ウレタンクッションを2つ用いて 「胸郭と骨盤に圧を分散させる」

誰でも簡単にできる. 同じ効果が望める.

方法を模索し、検証することとした.

なぜ、車椅子からずり落ちるか知っていますか?

立っている時, 骨盤は起きる. 座っている時, 骨盤は倒れる.

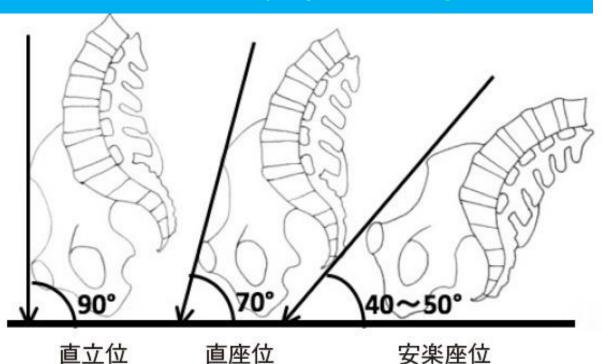
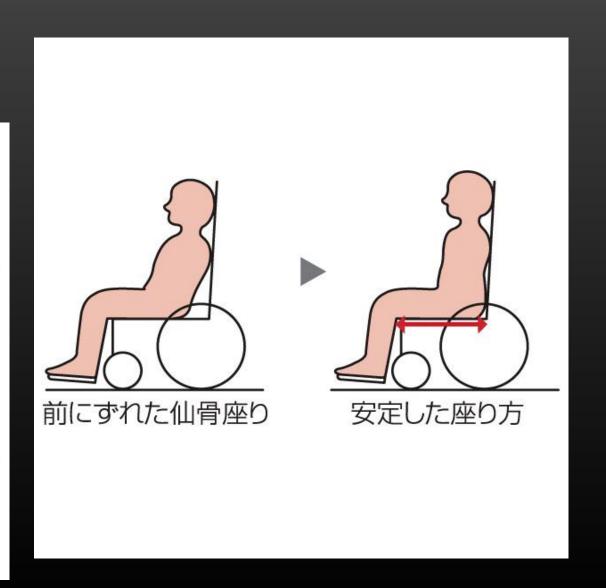


図8 姿勢と骨盤の傾き

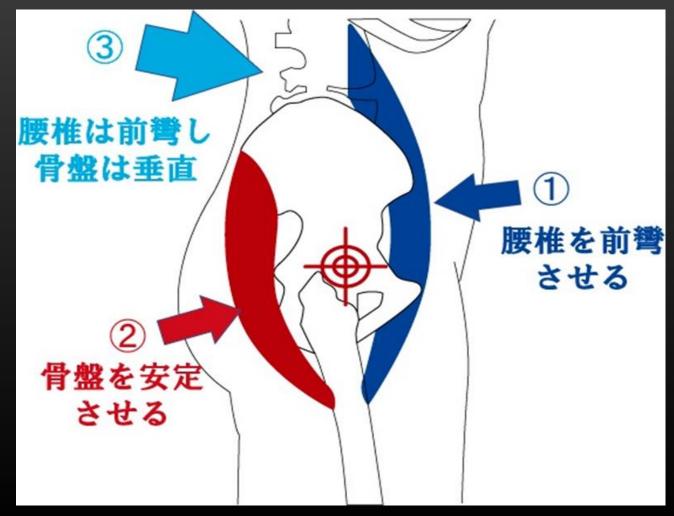


立位は自然と骨盤が起きる.

自然と骨盤は起きる.



骨盤前後の筋が自然と張る.

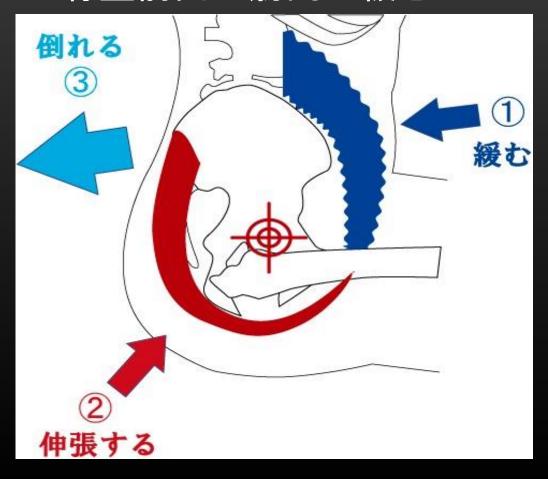


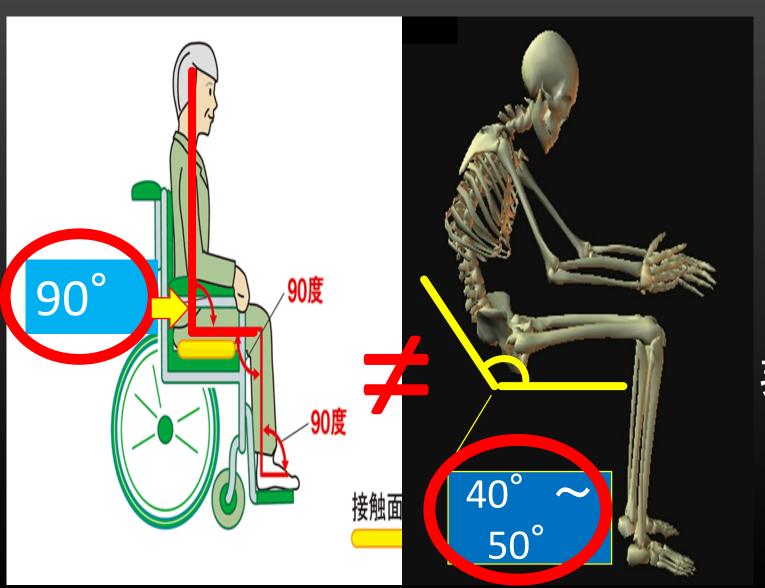
座位は骨盤が後ろへ倒れる.

骨盤の構造上倒れる.



股関節屈曲することで 骨盤前面の筋肉が緩むから





車椅子の構造と人間の骨格構造は

非常に不安定な関係性である.



自分で動かせるから

"年を無せる"







骨盤は40°~50°の角度となる.

前へズレるところにクッションを入れる.

背もたれに圧がかかる.

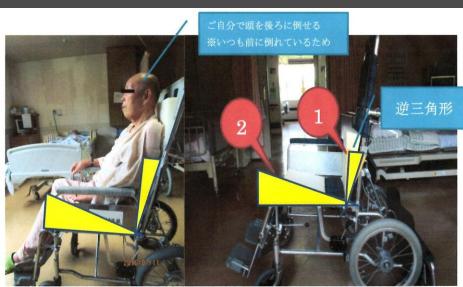
そこにもう1つクッションを入れる.

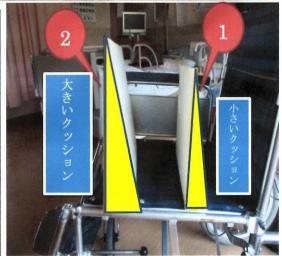
真の骨盤の角度により近い形で安定.

方法

- ・ 当院入院中の脳内出血後遺症患者様1名
- (発症後4年 左片麻痺 中~高度の感覚低下 食事以外全介助)
- ・昼の食事場面において、当院3病棟介護士がシーティング実施、
- ・シーティングの方法は説明書を作成し、方法を統一して実施.
- ・誰でも簡単にできることを検証するため、8/1~8/31(休日を除く計21日間)の期間に経験年数に関わらず実施した。
- ・シーティングを実施した介護士に食事場面において
- •①姿勢の崩れの有無

 ②食事途中で姿勢の修正を行った場合の回数について記載をしてもらった。





ギャッジアップは自由に調整していただいて構いません。

•

- 大きいクッションが座面、小さいクッションが腰です。
- 本人様が意識的に背もたれに頭をくっつけられると良いです。

	姿勢の崩れ	食べやすさ	むせ
8月1日	△途中心右に傾動り。	△ニぼしあり。	().
8月2日	△流中右に傾きあり、	9	
8月3日	O	0	0
8月4日	0	\triangle	0 😩
8月5日	△%石に傾きあり	Δ	Q
8月6日	大学····································	and the second section of the second	
8月7日	○原前国急にあた 化電子ない。	0	0
8月8日	0	0	0
8月9日	0	△こぼ'あり	
8月10日	0	<u> </u>	0
8月11日	The same of the sa	And the second s	
8月12日	9 ,	0	0
8月13日			
8月14日	0	ロコぼル	Q (F)
8月15日	And the same of th	The second in the second of the second	Conditional State of the Control of
8月16日	0	Δ	0
8月17日	0	0	0 3
8月18日	0	0	0
8月19日			
8月20日	and the section of th		

結果①:姿勢の崩れ

検証前

毎日1回の食事で 介護士が姿勢を直した回数 約3回 検証後

検証21日間で <u>介護士が姿勢を直した</u>回数

1回

介護士が姿勢を直していない. 「姿勢は多少崩れるが修正なし」

4回

「姿勢の崩れなし」

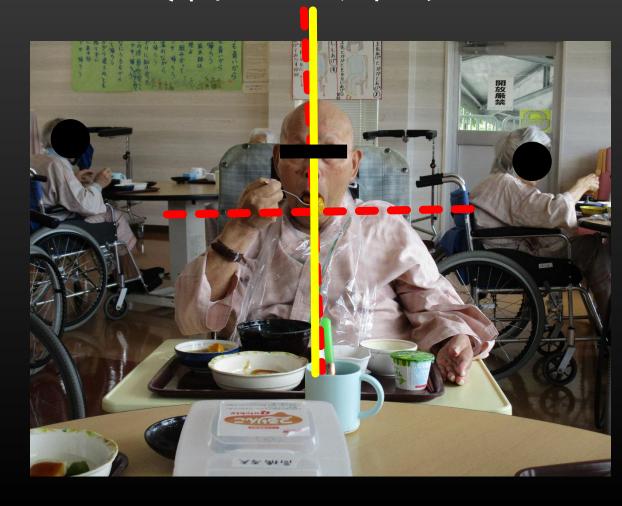
17回

結果①:姿勢の崩れ(写真にて)

普段のシーティング



今回のシーティング



結果②:シーティングをした介護士の経験年数

21回のシーティングのうち経験年数別に見ると

経験年数2年未満

8回

経験年数3~5年

7回

経験年数10年以上

6回

結果③:シーティングによる仙骨部の体圧

ハンディタイプ体圧測定器 プレッシャー・スキャニング・エイド セロ CR-270 株式会社 ケープ



普段のシーティング **51.3**mmHg



今回のシーティング後 20.5_{mmHg}

考察

小児脳性麻痺児のシーティング理論を参考に

2つウレタンクッションを使用し、胸郭、骨盤に圧を分散できた. 自身で身体を動かしやすくなり、姿勢が崩れにくくなったと考える.

1人1人に時間をかけて姿勢を直すことは理想である. しかし、現実的には難しいことも多い. 経験年数により時間のかかり方、方法にも差が生じてしまうこともある.

「誰でも簡単に行える方法」

患者様1人1人に同じような結果を誰もが発揮することで 多くの患者様が毎日を安楽に<mark>笑顔</mark>に過ごせる可能性があると考える.